

## インターバンクの声（2015年3月12日）

昨夜の欧米市場では、米国の主要経済指標の発表もなく中長期金利にも目立った変化がないとあって、ドル円相場は40銭前後の値幅にとどまる値動きを続けた。その一方で活発な値動きを見せているのがユーロと英ポンドだ。ユーロは節目の大台を割り込む度に次のサポート水準まで一気に売り込むような値動きが続いている。足許の次の目標は心理的な壁であり、12年前の2003年3月にまで遡る安値の1.05ドルというのが市場でほぼ共有しているところだ。もう少し先には、その2003年の最安値である1.03ドル台やパリティ（1ユーロ＝1ドル）もあるが、さすがに1.05ドルより下のレベルでの売り速度は弱まりそうな気もする。ただ、ポジション調整以外に大きく買い戻されるような材料も見当たらず、少し反発したレベルでは売り増しを狙っている人たちも多そうだ。ユーロ同様に下落が目立っているのが英ポンドだ。1月下旬から2月初旬に1.50ドルを割り込む安値をつけてからは、2月最終日目前まで1.55ドル台まで反発していたが、そこから2週間足らずで再び1.50ドルを割ってきた。1月の製造業生産高や鉱工業生産の結果が予想を下回ったことが大きく影響したようだが、イングランド銀行（英中央銀行）金融政策委員会のウィール委員が、同国の經常赤字が高水準であることを踏まえ、ポンドの急落リスクがあるとの認識を示したことも材料になったようだ。今日の東京の朝方は、豪州の雇用統計発表が控えている。こちらでも予想を大きく外す結果が出て来ればひと波乱ありそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。